



平成21年1月16日

各 位

会 社 名 三菱レイヨン株式会社
代表者名 取締役社長 鎌原 正直
(コード番号 3404 東証・大証第1部)
問合せ先 広報・IR室長 指山 正敏
(TEL. 03-5495-3100)

アクリル繊維事業の構造改革に伴う特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、平成21年3月期第3四半期において、特別損失が発生することとなりましたので、その概要を下記のとおりお知らせします。

記

1. 特別損失の発生について

当社国内製造拠点（以下大竹事業所）及び中国の寧波麗陽化繊有限公司（以下、寧波麗陽社）におけるアクリル繊維事業の構造改革費用として、平成21年3月期第3四半期連結決算において、約130億円の特別損失を計上する予定です。

2. 経緯および特別損失発生の理由

当社グループのアクリル繊維事業は、主原料AN（アクリロニトリル）価格の上昇、及びそれに伴う世界需要の減少傾向（安価なポリエステル素材への需要のシフト）に伴い、近年赤字経営を余儀なくされてきました。このような環境下、当社は原綿価格の引き上げ、高付加価値素材比率の向上、並びに大竹事業所、寧波麗陽社の減産を強化して対応してきましたが、現状のままでは中長期的にも大幅な収益回復は困難と判断し、固定資産の減損処理その他を実施することとしました。

3. アクリル繊維事業の構造改革について

当社グループは、2008年～2010年の第6次中期経営計画の重要課題として課題事業対策断行を掲げ、アクリル繊維事業の構造改革を推し進めてきました。今年度、紡績事業及び小型繊維事業を手始めに、種々の対策を実施してきましたが、この度、アクリル繊維事業の構造改革の総仕上げとして、原綿生産の縮小実施及び特別損失の計上にいたしました。今後も中期経営計画に基づき、計画目標の実現に向け邁進していきます。個別の内容は下記のとおりです。

(1) 大竹事業所

レギュラー品種の生産能力を大幅に縮小し、競争優位性の高い付加価値品を拡大します。原綿生産能力は13万トン規模から5万2千トン規模に縮小します。また、炭素繊維用プレカーサー製造設備への転換を加速します。当社グループは主原料であるANからプレカーサー、炭素繊維、プリプレグ、複合材料、製品加工までの一貫した生産体制を保有しており、プレカーサーの強みを軸としてANチェーンの更なる強化に邁進していきます。

(2) 寧波麗陽社

寧波麗陽社は、徐々に減産を強化してきましたが、抜本的改革を早期に実施すべく、共同出資者と協議中です。

4. 平成21年3月期の通期業績の見通し

上記の特別損失を含む平成21年3月期の通期連結業績予想については現在精査中のため、見通しが明らかになり次第速やかに開示します。

以 上